

令和4年8月24日

市政記者クラブ様

経済局イノベーション推進部次世代産業振興課
担当：臼井、葛島 電話：972-2420
(名古屋経済記者クラブ同日発表)

令和4年度フィールド活用型支援事業「Hatch Meets」実証プロジェクト



「草木類」の回収の効率化に向けた社会実証を実施します！

このたび、フィールドを活用した社会実証を推進する産学官連携のネットワークコミュニティ「Hatch Meets」において、実証プロジェクトを立ち上げ、下記のとおり社会実証を実施しますので、取材していただきますよう、よろしくお願いいたします。

記

1 プロジェクトの概要

本市では、令和2年度よりごみ減量や再生可能エネルギーへの活用を図るため、草木類の分別・回収の実証実験に取り組んでいるところです。今回、小田急電鉄株式会社の循環型社会を目指すウェイストマネジメント事業「WOOMS (ウームス)」を活用し、回収の効率化、CO₂排出量削減に向けた実証を行います。

2 実施主体

- (1) フィールド 環境局作業課
- (2) 事業者 小田急電鉄株式会社

3 実証内容

(1) 実証期間

- フェーズ1 令和4年9月25日(日)
- フェーズ2 令和4年10月～11月頃を予定

(2) 実証方法

フェーズ1では、「草木類」の廃棄を予定している家庭から市への申込情報をもとに、「WOOMS」が最も効率的な回収ルートを生成します。収集車は、タブレット端末に表示された回収ルートに基づき走行することで、CO₂排出量を抑えながら収集を行います。

フェーズ2では、各家庭で可燃ごみとして排出されている「草木類」を後追い収集します。通常の可燃ごみを担当する先発収集車と「草木類」を担当する後発収集車に役割を分け、先発収集車は可燃ごみを回収しながら「草木類」が出されている場所の情報を「WOOMS」へ登録し、後発収集車はその情報から生成される効率的な回収ルートを用いて収集します。各家庭からの事前申込なしで、分別回収が可能となり、回収の効率化が図られます。

4 その他

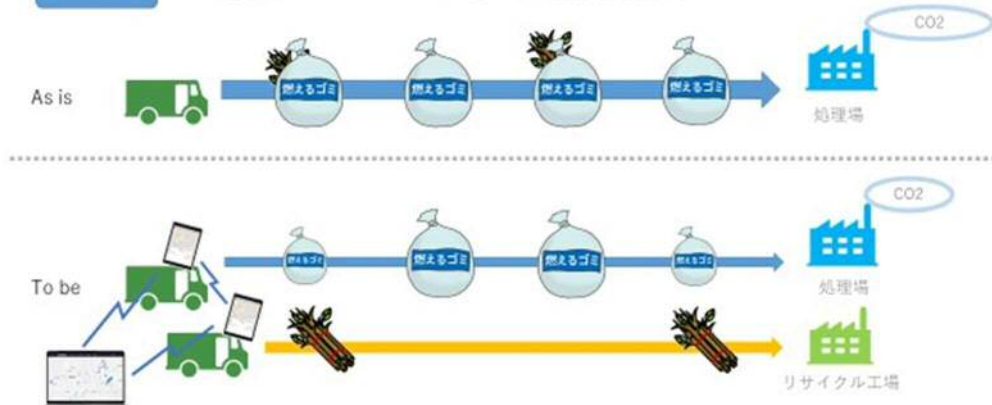
現地取材にお越しいただける場合は、次世代産業振興課までご連絡いただきますようお願いいたします。

WOOMS を用いた事業イメージ

フェーズ1 小田急電鉄「WOOMSシステム」による剪定枝分別回収ルート設計 ※粗大ごみ等、事前申込み制による回収全般に活用可能



フェーズ2 小田急電鉄「WOOMSシステム」による剪定枝波状収集



本件に関する小田急電鉄株式会社のプレスリリースに関するお問い合わせ
小田急電鉄株式会社 広報・環境部 池田・近浦 電話番号：03-3349-2290

【参考】「Hatch Meets（ハッチミーツ）」（フィールド活用型支援事業）について

本市及び民間施設等を社会実証の場（フィールド）として活用するため、場の提供と課題の整理・解決をするネットワークコミュニティ「Hatch Meets」を産学官で立ち上げ、先進技術を有する企業等の提案や 実証ニーズを実現するものです。

先進技術の実証ニーズを持つ企業及びフィールドを提供いただける企業を随時募集しております。

